

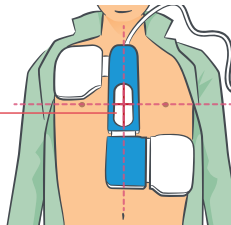
POINT1 一体型の小学生～大人用パッド

ZOLL® AED Plus®

1 センサーで位置決め

加速度センサーの十字部分を
胸の真ん中に置きます。

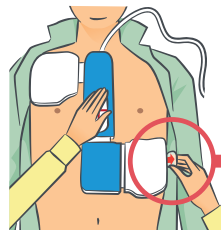
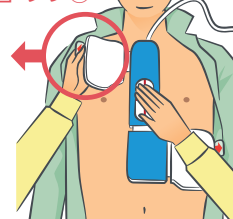
加速度センサー



2 タブを引っ張り装着

加速度センサー部を手でおさえなが
らタブを引っ張り除細動パッドから
保護紙をはがし、しっかり貼ります。

右:タブ②



左:タブ③

CPR-D-padz®
小学生～大人用除細動パッド

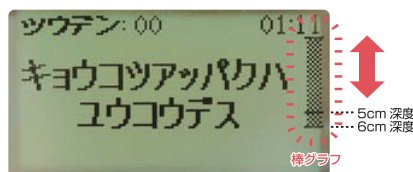
POINT2 胸骨圧迫ヘルプ機能

ディスプレイ表示

音声ガイダンス

1 胸骨圧迫深度インジケーター

胸骨圧迫の深さが棒グラフで表示されます。
これにより圧迫深度が適切(5～6cm)であるわかります。

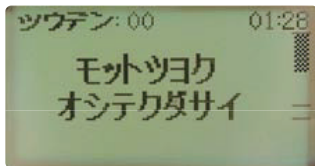


2 胸骨圧迫リズム音

胸骨圧迫時に発するリズム音により、
100回/分の圧迫速度に誘導します。

3 音声案内・メッセージ表示

『もっと強く押してください!』
『胸骨圧迫は有効です!』などの音声
案内とメッセージ表示により、適切
な胸骨圧迫をサポートします。



もっと
強く押して
ください!!



⚠ ZOLL® AED Plus® 使用時の注意点

- 未就学児への小学生～大人用除細動パッド(CPR-D-padz)の使用は、未就学児用除細動パッド(Pedi-padz II)が近くに無いなど、やむを得ない場合に限ってください。その際は、音声案内にかかわらず、胸骨圧迫の適切な深さは胸の厚みの約1/3です。
- 未就学児用除細動パッドを使用する場合、胸骨圧迫の深さ、速さは測定されません。
- 小学生～大人用除細動パッドは、傷病者の身体の大きさに応じて加速度センサー部から下方のパッドを切り離して使用できます。その際は、2枚のパッドが触れ合わないよう注意してください。

ガイドライン
2020対応



AED Plusは耳が不自由な方
にもご使用いただけます

【選任製造販売業者】

旭化成ゾールメディカル株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-1-1 興和西新橋ビル
tel.03-6205-4544 fax.03-6205-4923
www.ak-zoll.com

旭化成AEDコールセンター(24時間受付)

0800-222-0889



一般的名称: 非医療従事者向け自動除細動器
販売名: ZOLL AED Plus 半自動除細動器
医療機器承認番号: 22200BZ100015000
クラス分類: 高度管理医療機器(クラスIII) / 特定保守管理医療機器

AEDが到着するまで

1 反応の確認 ▶ 助けを呼ぶ (119番通報 AEDの手配) ▶ 呼吸の確認

2 胸骨圧迫

正常な呼吸が認められない場合は、ただちに胸の真ん中(胸骨の下半分)を「強く」「速く」「絶え間なく」押します。

小学生～大人

約5cm
(6cmを超えない)
100-120回/分のテンポで押す

未就学児

胸の厚さの約1/3の深さまで押す

できる方のみ 人工呼吸

気道を確保→胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返し行う

※ただし、新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして人工呼吸は
● 小学生～大人には実施しない ● 未就学児には、救助者が講習を受けて技術があり意思があれば実施。感染防護具があれば使用する

AEDが到着したら

AEDが到着するまで ② を続けます

3 電源オン

4 パッド装着

小学生～大人用
パッド

未就学児用
パッド

5 電気ショック

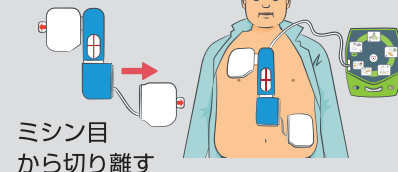
ショックの要否は
音声案内に従う

6 胸骨圧迫

音声案内に従い
加速度センサー部を押す
(5cm以上、100回/分に誘導します)

小学生～大人用パッド 装着例

● 体が大きい場合



● 女性の場合



● 未就学児にやむを得なく装着する場合

前後に装着



未就学児の場合は、AEDの音声案内にかかわらず、胸の厚みの約1/3の深さまで押します。

できる方のみ 人工呼吸

気道を確保→胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返し行う

※ただし、新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして人工呼吸は
● 小学生～大人には実施しない ● 未就学児には、救助者が講習を受けて技術があり意思があれば実施。感染防護具があれば使用する

新型コロナウイルス感染症流行時の救命処置について

新型コロナウイルス感染症が流行している状況においては、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応してください。

- 反応の確認や呼吸の観察時に、傷病者の顔にあまり近づきすぎない
- 胸骨圧迫開始前に、傷病者の鼻と口にはハンカチ、タオル、マスク、衣服などをかぶせる
- 人工呼吸は小学生～大人には実施しない。未就学児には、講習を受けて技術があり、意思があれば実施。感染防護具があれば使用する
- 傷病者を救急隊員に引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う。傷病者の鼻と口にかぶせたものには直接触れないようにし、廃棄するのが望ましい

*厚生労働省「新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた 市民による救急蘇生法について(指針)」に基づく